



ベルボン製品を正しく安全にお使いいただくために

安全上の ご注意



必ずお守りください














お使いになる人や他の人への危険、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性・または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

 警告		 注意	
			
<p>スパイク付石突を備えた三脚を持ち運ぶときは、安全のためスパイクを出さないでください。死亡や大ケガの原因となります。</p>	<p>脚を開閉するときは、十分に注意してください。あやまって指をはさむとケガにつながります。慌てずによく確かめて操作してください。</p>	<p>三脚にカメラを装着したままでの移動は、お避けください。予想以上の力が加わった場合、カメラが落下する恐れがあります。</p>	<p>三脚の自重の2倍を超えるカメラの使用は、安定性を損ないますのでお避けください。カメラブレの原因となったり、三脚が転倒する恐れがあります</p>
			
<p>カメラを載せたまま脚の伸縮調整や雲台の操作をするときは、カメラ本体を必ず手で支えながら行ってください。三脚やカメラが不意に動き、カメラを破損したり手を三脚にはさみケガをする恐れがあります。</p>	<p>ぐらついた台の上や傾斜面など、不安定な場所で使用する場合は十分に注意してください。特に高位置での使用の場合、頭や足の上などに落下すると、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。</p>	<p>各々のネジや固定レバーは、必要などき以外は確実に固定してご使用ください。ネジや固定レバーがゆるんでいると、三脚の転倒やカメラ破損の原因となります。</p>	<p>三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の補給はしないでください。十分な性能が発揮されなくなる場合があります。</p>
			
<ul style="list-style-type: none"> ● 小さなお子様の手の届く所には、設置・保管しないで下さい。手をはさんだり倒れたりして、ケガをする恐れがあります。 ● 三脚は、金属部品やカーボン繊維で構成されておりますので通電します。電気の側や高圧線の近くでの使用は避けてください。また、落雷の恐れがあります。 ● 三脚の上には絶対に腰掛けたり乗ったりしないでください。転倒し死亡や大ケガにつながります。 ● 寒冷地でご使用される場合は金属部が凍結する恐れがありますので、素手で操作しないでください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カメラを取り付けた状態で、不安定な場所に放置したり立てかけたりしないでください。転倒の恐れがあります 		<ul style="list-style-type: none"> ● 夏季など高温になる自動車内等には放置しないでください。オイル漏れや故障の原因となります。 ● 寒冷地でご使用される場合は十分な性能が発揮されない場合があります。特にビデオ用オイルフリード雲台では、パン・ティルトの動作が重くなったり動かなくなることがあります。 ● 三脚を携帯するときは、部品の脱落防止のため各々のネジ等を、しっかり締めつけて持ち運びしてください。 ● 写真機、ビデオ、望遠鏡等での撮影・観察以外の目的で使用しないでください。

お手入れについて

- ご使用後は、必ず湿った布で汚れを拭きとった後に、乾いた布でよく拭いて保管して下さい。特に海岸および温泉地でのご使用後は、そのままの状態では放置すると錆びや故障の原因となります。
- 脚パイプに水や砂がついたまま脚をたたむと、重なった脚パイプの隙間に詰まってしまう、伸縮が固くなったりできなくなったりする恐れがありますのでご注意ください。
- 清掃の際はシンナー等の薬品は使わないで下さい。

アフターサービス

- 修理または部品を紛失した場合は、販売店か弊社サービス部へ直接お問い合わせください。本製品の性能部品は、製造打ち切り後5年を目安に保有しております。
- ※この期間後であっても修理可能な場合もあります。
- ※製品改良のため、予告なしに仕様・デザイン・諸元などを変更することがありますのでご了承ください。

ベルボンお客様ご相談センター

0551-25-6155

便利メモ

※おぼえのため記入されると便利です。

お買い上日	年	月	日
販売店名			
(電話)			

Velbon

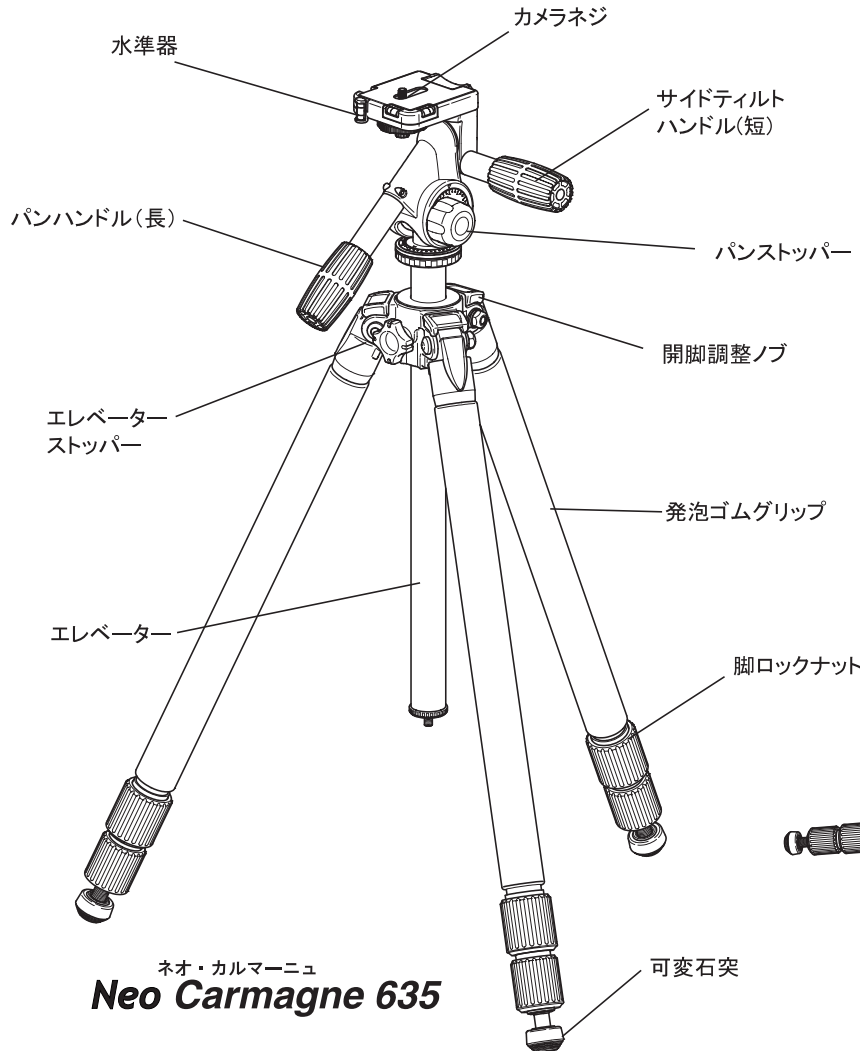
ネオ・カルマーニュ
Neo Carmagne 635 / 645

取扱説明書

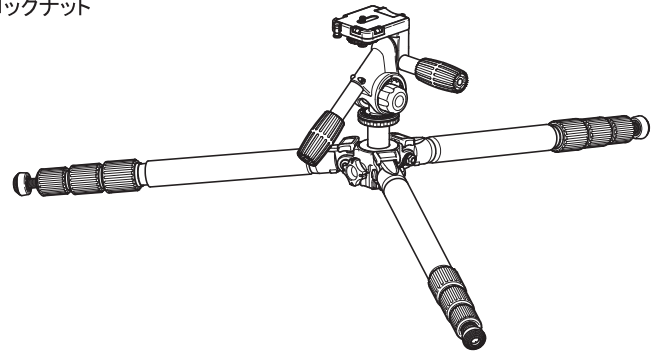
正しく安全にお使いいただくため、
ご使用前に必ず本書をよくお読みください。
お読みになった後は、必ず保存してください。

各部の名称

このたびは、ベルボン三脚をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。



ネオ・カルマーニュ
Neo Carmagne 645
(ローポジション)



※ローポジションはどちらの機種でも可能です。

仕様

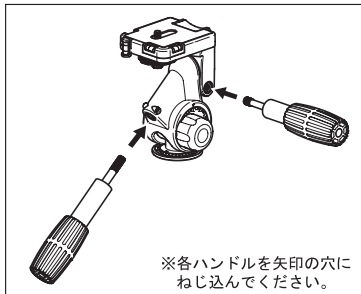
	Neo Carmagne 635	Neo Carmagne 645
雲台	PHD-61	PHD-61
全高	約 1,823mm	約 1,720mm
エレベータースライド	約 332mm	約 332mm
最低高	約 275mm	約 247mm
縮長	約 735mm	約 615mm
質量	約 2,464g	約 2,458g
脚パイプ径	28・25・22mm	28・25・22・19mm
段数	3段	4段
最大積載カメラ質量	4kg	4kg

★ Neo Carmagne 635 / 645 は・・・

脚素材には極めて軽く剛性の高いカーボンファイバーを、本体基台部には従来のアルミより軽く、かつ強度のあるマグネシウムを使用しています。また、「Inner Jut Pipe」脚はどの段からでも伸縮可能で、トリプルスリーブによりがっちり固定されます。雲台は、新開発のPHD-61を搭載。高精度加工による滑らかな作動と確実な固定力が得られます。カメラダイに装着された4個の水準器は多様な水平取りに対応します。

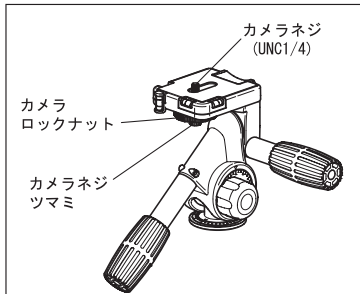
※記載の数値は平均的な値です。三脚は組み合わせ部品で構成されておりますので、記載数値と若干異なる場合があります。

カメラの取付け方①



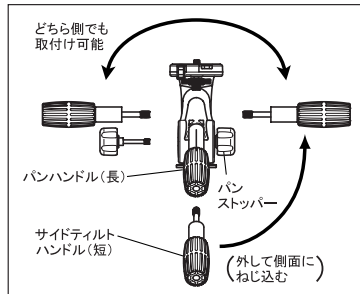
※各ハンドルを矢印の穴にねじ込んでください。

カメラの取付け方②



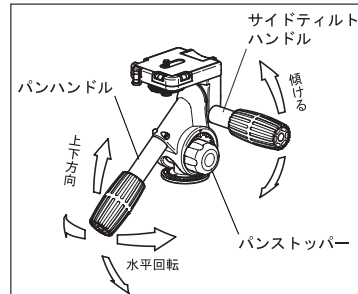
カメラのネジ穴にカメラネジを合わせ止まるまで回してしっかり固定し、最後にカメラロックナットを回して増し締めします。(カメラ取り付けの際はハンドル棒やストッパーを締め、雲台が固定されていることを確認した上で行ってください)

雲台の使い方①



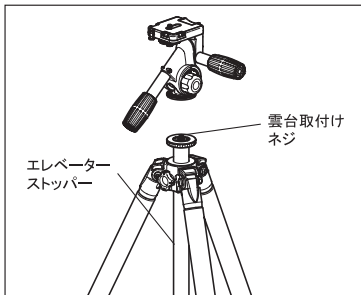
サイドテイルハンドルをパンハンドルからはずし、本体側面の穴にねじ込みます。
※サイドテイルハンドルとパンストッパーは左右どちらにも取付け可能ですが、同じ側面に取付けてください。それぞれ違う側面に取付けると、カメラを縦位置にしながら上方に向けることはできません。

雲台の使い方②



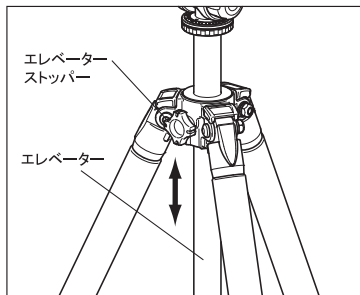
パンハンドルを反時計方向に回し緩めると、カメラの上下方向が変えられます。サイドテイルハンドルを緩めると、カメラの傾きが変えられます。パンストッパーを緩めると、カメラを水平方向へ回転させることができます。必要な位置で各々を締めて撮影します。

雲台を交換するには



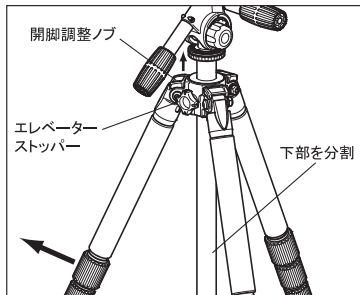
雲台を交換するには、雲台の全てのストッパーやハンドル、エレベーターストッパーをしっかりしめ、雲台全体を反時計方向に回すと外れます。他の雲台に交換することができます。
※雲台取り付けネジはUNC1/4(細ネジ)サイズです。

エレベーターの昇降



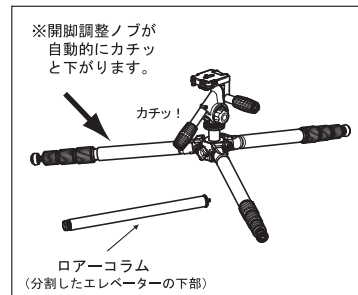
エレベーターストッパーを反時計方向にまわしゆるめると、エレベーターの昇降が可能です。必要な位置でストッパーをしめて固定します(エレベーターの操作時は必ず機材を手で持ちながら行ってください)。

開脚角度の調整①



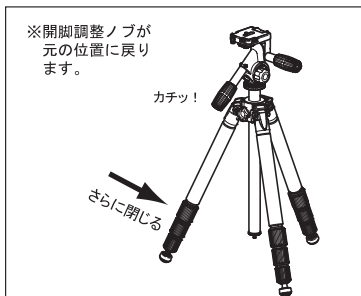
① 脚を折りたたんだ状態で、開脚調整ノブをカチッと止まる所まで引き上げ、脚をいっばいに開くとローポジションとなります(エレベーターは、ストッパーをしめてから下部を回すと分割できます)。

開脚角度の調整②



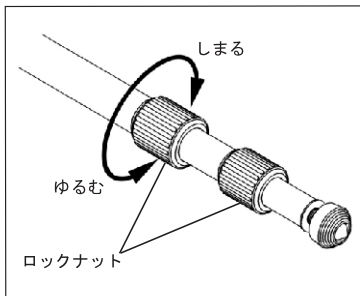
② ローポジションにした脚をゆっくり閉じていくと、開脚調整ノブが自動的に一段下がり、この位置がセミローポジションとなります。

開脚角度の調整③



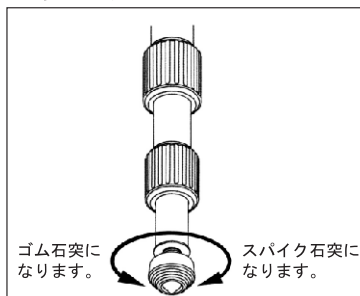
③ さらに脚を閉じていくと、またノブが自動的に一段下がり、標準開脚に戻ります。なお、開脚角度は各々の脚で自由に変わることができます。
※一度開脚調整ノブを引き上げると、ローポジション→セミローポジションにしないと戻りません。

脚の伸縮



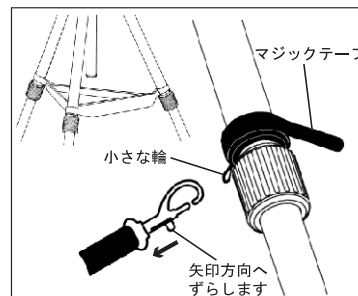
脚の伸縮は、ロックナットを回して操作します。ロックナットを上図ゆるむ方向に回し、脚を引き伸ばしたら再び締めて固定します。このときロックナットを緩めすぎに注意してください。

可変石突



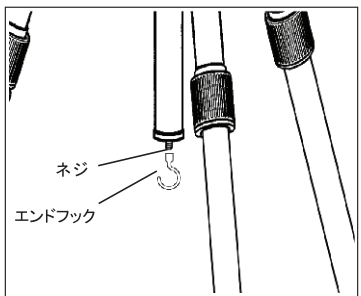
脚の先端部可変式石突になっています。設置する地面の状況に応じて先端部を回しゴム石突とスパイク石突を交換してご使用ください。なお、携帯時は危険ですので、必ずゴム石突にしてください。

ストーンバッグ



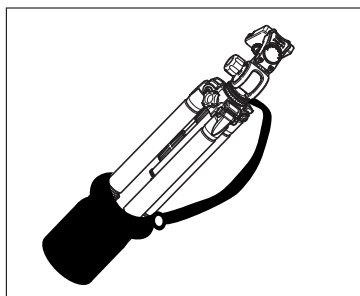
風の強い場所では、重し入れとしてストーンバッグをお使いください。バンドの小さな輪ができていの方を内側にして、上図の部分にマジックテープできつく巻きつけます(三箇所とも)。その輪にストーンバッグのフックを引っかけて使用します。

エンドフック



付属品のエンドフックは、上図のようにエレベーター下部のネジに取り付けて使用します。カメラバッグ等を吊り下げ、安定性を確保します。吊り下げたバッグが風にあおられるとブレの原因になりますので、ベルトは出来るだけ短くして吊り下げてください。

レグポシェット



三脚を持ち運ぶ際は、付属のレグポシェットを使うと便利です。上図のように三脚の脚部をポシェットに入れます。
※必ず脚部が下になるようにして持ち運んでください。雲台が下になるとポシェットが抜けてしまい危険です。